

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【公開番号】特開2003-212955(P2003-212955A)

【公開日】平成15年7月30日(2003.7.30)

【出願番号】特願2002-9126(P2002-9126)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 G 59/14

B 0 1 D 15/00

C 0 7 D 303/27

【F I】

C 0 8 G 59/14

B 0 1 D 15/00 J

C 0 7 D 303/27

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月9日(2004.9.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

水素添加触媒の存在下に芳香族エポキシ化合物の芳香環を選択的に水素化するに当たり、エステル系溶媒の含有率が50重量%以上である反応溶媒の存在下に反応を行なうこと特徴とする脂環式エポキシ化合物の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明は、上記の知見に基づき完成されたものであり、その要旨は、水素添加触媒の存在下に芳香族エポキシ化合物の芳香環を選択的に水素化するに当たり、エステル系溶媒の含有率が50重量%以上である反応溶媒の存在下に反応を行なうこと特徴とする脂環式エポキシ化合物の製造方法に存する。そして、本発明の特に好ましい実施態様においては、水素化反応で得られ脂環式エポキシ化合物を吸着剤と接触させて当該脂環式エポキシ化合物中のロジウムを除去する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

本発明において、上記の水素化反応は、エステル系溶媒の含有率が50重量%以上である反応溶媒の存在下に反応を行なう必要がある。エステル系溶媒としては、脂肪酸エステル、炭酸エステル、ラクトンなどが挙げられるが、特に脂肪酸エステルが好ましい。また、取扱の面から、常圧下での沸点が50～180の範囲にある脂肪酸エステルが好ましい。斯かる脂肪酸エステルとしては、酢酸メチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチ

ル、酢酸アミル、プロピオン酸メチル、プロピオン酸プロピル、プロピオン酸ブチル、酪酸メチル、酪酸エチル、イソ吉草酸メチル等を挙げることが出来る。これらの中では、酢酸エステルとプロピオン酸エステルが好ましい。具体的には、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル、プロピオン酸メチルが好ましく、特に酢酸エチルが好適である。